

漁海況情報

平成 24 年 6 月 20 日 第 7 号 (通巻 501 号)

山口県水産研究センター 外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎 2861-3

TEL : 0837-26-0711 FAX : 0837-26-1042 Mail : a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

【海鳴りネットワーク】 <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16500/uminari/uminari-top.html>

【マアジ漁況予報】

6-9 月のマアジの漁況は、15~25cm の 1 歳魚が主体で、不漁であった前年を上回るものの、平年(過去 5 年の平均値)を下回るでしょう。

* 平年並み: 漁獲量平均値の 80~120%, 平年を上回る: 120%以上, 平年を下回る: 80%以下

〈予報の根拠〉

- ① 山口県の中型まき網による 3~5 月の漁獲量は、431 トンで低い水準(前年比 147%、平年比 64%)でした(図 1)。また、近県(長崎県、福岡県など)も同様に不漁です。

山口県では、初漁期(3~5 月)の漁獲量と年間の漁獲量との間に正の相関関係がみられます(図 2)。今期の初漁期漁獲量をもとに、年間漁獲量を推定すると、1ヶ統あたりで 282 トン(全県での推定値が 2,254 トン、H9 年以降で下から 2 番目)になりました。

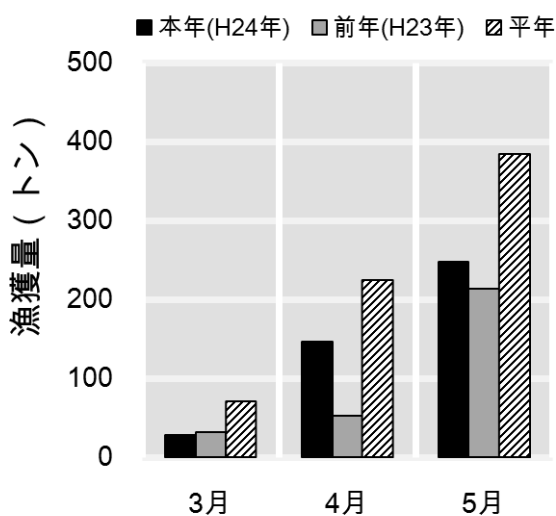


図 1 中型まき網による 3~5 月のマアジ漁獲量

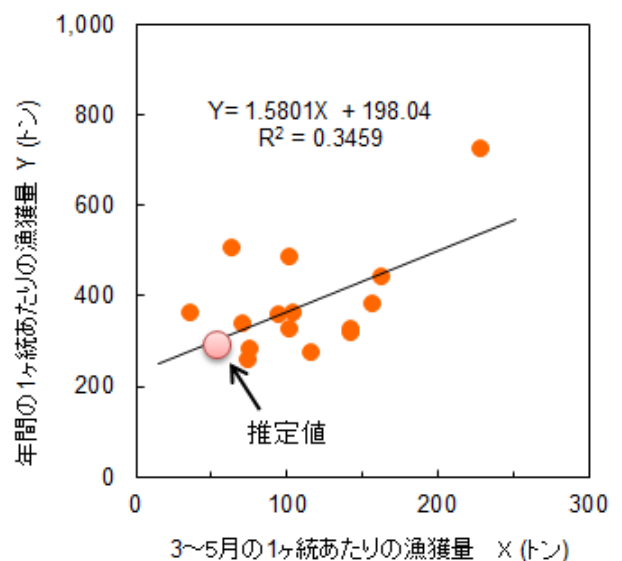


図 2 初漁期のマアジ漁獲量と年間漁獲量の関係

② 漁獲量の変動には、水温などの海洋環境、小型いわし類などの餌料環境が関与していると考えられます。6月上旬の水温は平年並みですが(図3)、小型いわし類が少なく(図4)、マアジの漁場形成条件の良くない状態が続いています。長崎県総合水産試験場は、5-9月期のカタクチイワシ漁況について、「不漁であった前年を上回るが、平年を下回る」と予報しています。

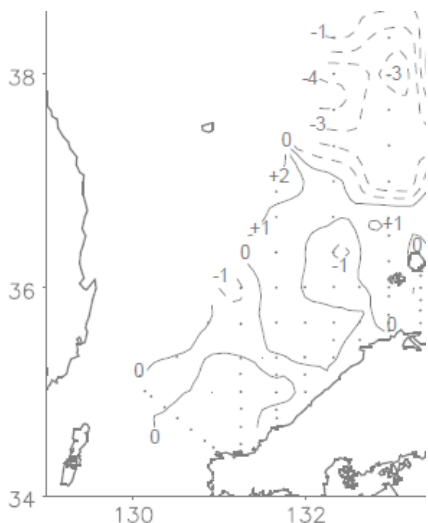


図3 日本海南西海域における6月上旬の50m水温偏差。点線は平年より低い海域(日本海漁場海況速報(日水研)より抜粋)。

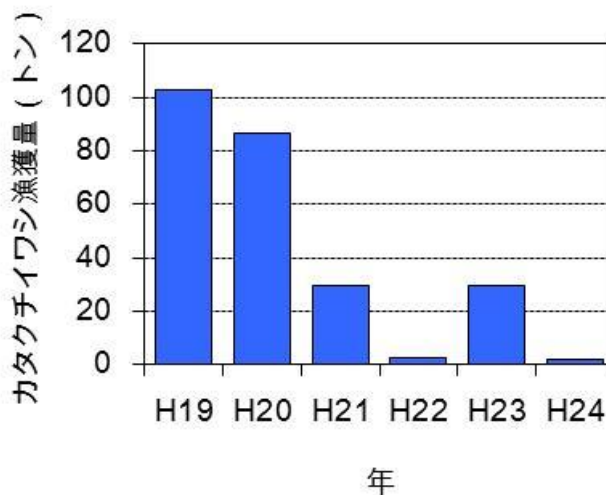


図4 長門市湊地区におけるカタクチイワシ(3~5月)の漁獲量。

③ 山口県のマアジ漁獲量は、対馬暖流系群マアジの資源量の影響を受けると考えられます。そのマアジ資源量は、中位で横ばい傾向にあると判断されています。

④ 今後、水温の上昇とともに盛漁期に入り、本県沿岸でマアジの漁場が形成されることが考えられます。しかし、小型いわし類の出現状況によっては、漁場がうまく形成されないかもしれません。